

## 平成30年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す学校像	本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、自主性・自立性を備え、時代の変化やグローバル化に対応できる地域のリーダーとなる人材を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p style="text-align: center;">※平成29年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p> <p><b>教務部</b></p> <p>○アクティブラーニング研修等、実践的で有用な研修を行い、教員の指導改善への意識啓発ができた。 ○生徒の達成状況に応じた課外や補習を計画的に行えた。 ○必要に応じ、内規や教育課程の検討・見直しが行えた。 ○体験入学・出前授業・学校公開・P R用DVDの作成・地域との協働・イベントへの参加等、定員確保と地域との連携を密にとるための取り組みが行えた。 ○ボランティア活動では、地域の要望に応え協働的に活動することができた。</p> <p><b>【次年度への課題】</b></p> <p>○教員の指導力向上のため教科横断的な情報共有や、生徒の資質・能力を育むための取り組みについて効果的な対策を講じる。 ○継続的に内規の問題点について検討するとともに、運用についての共通理解をはかる。 ○校務支援システムの円滑な活用とH Pの充実を図る。 ○新学習指導要領に向け、生徒や地域の実情・実態や本校の特性に合わせた教育課程の編成を検討する。 ○定員確保と、地域に関わられた学校として外部との協働・連携を図る。 ○ボランティア活動で学んだ内容を生徒同士がフィードバックできるように道德の授業を有効活用する。</p>	<p>生徒の学力向上を図る。 教員の授業力向上を図る。 内規の検討を行う。 情報の適切な保護・管理と、HPでの教育活動、本校生の部活動活躍等の公表に努める。 道德及び道德プラスの効果的学習を行う。 コミュニケーション能力の育成を図る。 ビジネスマナーの修得に努める。 安定的な定員確保に向けた商業教育の活性化と、広報活動の実施。</p>	<p>・学力の向上を目指し、わかる授業を展開する。 ・学力向上推進委員会が中心となって、各教科および教科横断的に指導者相互に研修を行うことで、主体的・対話的で深い学びに向けた授業の工夫改善を行う。 ・本校の現状を踏まえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。 ・ガイドラインの作成と、それに沿った情報の運営・管理を行う。 ・協働的な学びを通し、生徒の自己有用感・達成感を味わわせる授業を展開する。 ・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。 ・他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する能力を養う。 ・様々な授業や日常生活のあらゆる場面を通した挨拶の励行とビジネスマナーの徹底 ・地域と連携し協働的な教育活動を行う。体験入学、出前授業の更なる充実と、学校公開や中学校訪問、HP等でのPR活動を積極的に行う。</p>	
<p><b>進路指導部</b></p> <p>○生徒の進路希望に即した進路ガイダンス等の行事・面接・課外指導を実施できた。 ○進路決定率100%を達成できた。 ○インターンシップは24事業所において、66名の生徒が参加し地域や社会との協働的活動ができた。 ○企業見学や就職選考等、進路と学年の連携がスムーズに取れた。</p> <p><b>【次年度への課題】</b></p> <p>○教員間の連携をより一層深められるようにしたい。 ○就職に関して、企業見学や選考のあり方について改善し、効率的に行うための方策を模索する。 ○進学に関して、推薦基準についての見直しを図る。</p>	<p>進路指導の充実を図る。</p>	<p>・生徒の個性に応じ、適切なキャリア教育を実施する。 ・進路実現100%を目指し、進学課外や教職員および外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。 ・教員間の連携を図り、進路未決定者に対するきめ細やかな指導を行う。 ・進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談、またキャリアデザインに関する指導などを適宜積極的に行う。 ・企業訪問を行い、求人確保及び開拓を推進する。 ・インターンシップなど様々な活動を通して職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。</p>	
<p><b>生徒指導部</b></p> <p>○立哨指導で部活動の生徒が見本となり、挨拶等の呼びかけ運動ができた。○服装指導票を導入し、女子のスカート丈が改善された。○遅刻カードを利用した段階的な指導が昨年度よりも機能した。○予定された講話や講習会をすべて実施し事故等の未然防止ができた。○校内の巡回指導を毎日行うことができた。外部からの苦情や学校の現状を集会等で知らせ、生徒への啓発を行った結果、苦情件数が減った。○計画的にカウンセリングを行うことができた。</p> <p><b>【次年度への課題】</b></p> <p>○授業開始時の服装チェックのあり方について再検討する。 ○喫煙防止等に効果的な指導法を考える。 ○服装頭髪指導や特別指導等のあり方について内規について検討する。</p>	<p>生徒指導の充実を図る。</p>	<p>・挨拶・身だしなみ・遅刻、欠席等基本的な生活習慣を身に付けさせるために、教員の共通理解のもと、きめ細やかな厳しい指導を行う。 ・朝の立哨指導、校内巡回を通し、生徒の小さな変化に気を配り、問題行動やいじめの未然防止に努める。 ・教員とスクールカウンセラー、家庭が連携し、効果的な教育相談の充実を図る。 ・集会やLHR等を通し、起こりうる問題への対処方法や、未然防止策を考えさせ、自主的に安全を守る能力を育成する。</p>	
<p><b>特活部</b></p> <p>○円滑な学校行事運営が実現できた。 ○年間を通じて、部活動加入率50%を維持することができた。 ○前年度の反省を活かし、クラスマッチや体育祭をより充実させることができた。</p> <p><b>【次年度への課題】</b></p> <p>○文化祭は、早い段階から生徒を動かし、主体的な取り組みが行えるようにする。 ○クラスマッチは、2日間を有効に活用し充実した内容になるよう企画する。教員の役割分担も再考する。 ○学校行事の運営に関して、生徒間の協議をより一層活性化させ、主体的・対話的な取り組みになるようにする。 ○野球応援の練習方法の見直しと一般生徒への事前指導を行う。 ○各部活動の入部者を増やす具体的方策を検討する。</p>	<p>特別教育活動の活性化を図る</p>	<p>・部活動、体育祭等の学校行事の充実を努め、生徒の主体的参加を促し、達成感や自己有用感を持たせる。 ・委員会等の特別活動や生徒会活動の活性化に努め、生徒が自ら考え行動する機会を増やす。</p>	
<p><b>環境整備部</b></p> <p>○教室のワックス掛け・モップ交換を計画通り実施できた。 ○教室の床を業者による清掃・ワックス掛けを行うことができた。 ○生徒の美化意識の向上と、協働を通しての教員と生徒間の信頼関係を築くことができた。 ○本館・特別棟トイレ清掃の美化に努めた。 ○学校周辺・通学路のゴミ、空き缶拾いは特活部とも協力・連携し計画通り実施できた。</p> <p><b>【次年度への課題】</b></p> <p>○本館のトイレ清掃に、業者を入れたが、特別棟トイレのフローリングもお願いしたい。 ○生徒の公共心や美化意識の向上を育成するために、業者の定期的な導入も検討してはどうか。 ○各清掃場所でのごみの分別の徹底を図る。 ○教室やトイレの美化について、清掃用具を工夫して取組み清潔を保つ。 ○学期ごとに目標を設定し、環境衛生面での意識の向上を図る。</p>	<p>自ら率先して清掃を行う態度を養う。 環境問題等に関する意識の向上を図る。</p>	<p>・教室のワックス塗り、モップ交換を定期的に年間4回実施する。 ・清掃監督を毎日行い、生徒の美化意識の向上に努める。 ・学期ごとの目標を設定し、環境衛生面の意識の向上を図る。 ・学校周辺の空き缶、空き瓶、ゴミ等清掃を年間2回行い、教育環境に興味関心を持たせる。 ・ゴミの分別をきちんとさせ、併せて環境問題にも関心を持たせる。</p>	
<p><b>図書部</b></p> <p>○読書センター・情報センターとして、蔵書整理や、新刊情報、季節の風物、図書便りの定期発行等、生徒の興味関心を引く工夫を凝らし、親しみやすい図書運営を行い、読書への啓発活動に取り組んだ。 ○1年生にオリエンテーションを行い、図書館の有効活用を促した。</p> <p><b>【次年度への課題】</b></p> <p>○昨年度より、学習活動・読書活動として図書室利用が増えたが、更に主体的・意欲的な学習活動・読書活動が充実し、貸出冊数が増加するような工夫を図る。 ○図書委員会を有効に活用し、生徒自身の主体的な取り組みを促すよう指導する。</p>	<p>読書指導を通して、生徒の主体的・意欲的な学習活動、読書活動を充実させる。</p>	<p>・図書委員主体の「図書便り」の定期発行を行う。 ・図書館資料の整理、蔵書の配置の工夫等、本に親しみやすい環境を整える。</p>	
<p><b>渉外部</b></p> <p>○計画通りにP T A総会を行うことができた。 ○スクールバスの運行コースが1つになってしまった。</p> <p><b>【次年度への課題】</b></p> <p>○P T A総会の出席率向上に向けての方策を考える。 ○参加希望者が少なく研修視察旅行が中止になってしまった。また支部研修会も2支部しか行われなかったため、P T A活動の活性化に向けて働きかけたい。 ○広報誌の発行に当たり、保護者が主体的に行えるように働きかけたい。 ○研修視察旅行を実施できるように参加者を増やしたい。</p>	<p>学校と家庭との連携を密にし、より良い教育環境を整える。</p>	<p>・P T A各種行事、会合等への参加率を高め、学校と保護者の情報の共有の機会を設ける</p>	
<p><b>保健厚生部</b></p> <p>○保健室運営において、来室生徒の状況を把握し、処置等迅速・的確に対応できた。 ○各種検診を計画的に行い、適切に生徒の健康管理、指導、助言等を行うことができた。 ○性教育講話では、ロールプレイを取り入れ、生徒の興味関心を喚起した。その他防火防災訓練や、ストーブ講習等、計画的に実施できた。 ○放射線測定・水質検査・環境検査等を予定通り実施し、校内の教育環境の安全管理が滞りなくできた。</p> <p><b>【次年度への課題】</b></p> <p>○Jアラート等、新たな危機管理マニュアルの作成。 ○内科検診を効率的に行えるようにする。</p>	<p>安心・安全な学校づくりの推進</p>	<p>・心身ともに健康な生徒を育成する。 ・学校の環境衛生について適切な維持管理に努める。 ・自主的に安全を守る能力を養う。</p>	

※ 評価基準    A：目標をはるかに上回った                      B：目標を達成できた                      C：目標にわずかに届かなかった                      D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
教科	国語	授業に意欲的に取り組む態度をはぐくみ、基礎学力の定着を図る。	授業に意欲的に取り組んでいることを評価するために、ノートや課題集の点検を適切に行う。		
			家庭学習の習慣化を図るために、定期考査や長期休業中に課題を出す。		
		様々な言語活動を通して、場に応じた適切な表現力を身につける。	スピーチや話し合いを行うことで、適切に話す力と聞く力を身につけ、コミュニケーション能力の向上を図る。		
			俳句や短歌の創作を通して感性を磨き表現力を高め、手紙やレポートを書くことを通じて場に応じて適切に書く力を身につける。		
		漢字検定受験者に対し、合格を目指した対策を行う。	宿題を課したり課外授業を実施するなどし、受験者の増加と合格率の向上を目指す。		
	社会	時事的な話題等を積極的に授業に盛り込み、授業への興味・関心を高める。	視聴覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。		
			発問を工夫し対話型の授業展開を心がけ、生徒への授業の参加を促す。		
		教科の基礎学力の定着をはかる。	授業内容の確認プリントやノートの指導（点検）等、きめ細かい指導を行い、基礎・基本の習得に努める。		
	数学	教科書の内容に基づく基礎学力の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	より多くの例題を通し、体験的に理解できるように工夫する。		
			課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。		
			各定期考査で、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。		
	理科	基礎的な学習の向上を図る。	生徒とのコミュニケーションを重視した授業を行い、必要に応じて課外を実施する。		
科学に対する興味・関心を高め、科学的思考力を身につける。		日常生活にあふれる理科現象や身近な物質を取りあげ、科学全般に対して関心を持たせる。			
物理実験室・化学実験室の整備と授業での活用を高める。		計画的に実験室の備品等の整備を進め、教室内の授業以外に実験室や屋外を利用して実験・実習を行う。			
体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体作り運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。			
	できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率90%以上を目指す。			
	体育的学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。			
	よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。			
保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。			
英語	基礎学力の向上に努める。	単元ごとに確認テスト・小テストを実施し、知識の定着を図り、基礎学力強化を目指す。			
		課題や学習ノート提出により、きめ細かく、継続的に理解不足の生徒に対して指導する。			
	資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外等を実施する。			
	実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	LL教室や音声教材を効果的に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング・スピーキング能力を高める。 ペアワーク・グループワーク・パフォーマンステスト等を実施し、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。			
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	実験・実習を多く取り入れ、具体的でわかりやすい授業を展開する。			
		プリント・ワークの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。			
		実習を通して、強い精神力や協調性、自主・自立の精神を育成する。			
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。			
商業	学力の向上を図る。	学力向上のために日々の授業を大切に、学習意欲の喚起と検定試験等の合格率を高める。			
		科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして授業の指導力向上に努める。			
	商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解を深めるために体験入学や出前授業を実施する。			
	ビジネスにおける実践力の育成を図る。	総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題
教務	生徒の学力向上を図る。	授業を工夫改善し、主体的・対話的で自ら考え学ぶことによる、分かる授業を展開させる。 教員の指導力向上のために、授業の相互参観期間を設け、校内外研修の機会を活用する。		
	教育課程の編成に努める。	専門分野の知識やビジネス活動体験を通し、社会の要請に応えられる人材の育成に繋がる教育課程を編成する。		
	学習意欲の低い生徒への指導を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。	成績不振者に対する日頃からのきめ細やかな指導と、補習や課外を計画的に行う。		
	内規の検討を行う。	本校の現状をふまえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。		
	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。		
	情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を、適正に管理する。		
	HPの適正な運営と、教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成と、それに沿ったコンテンツ委員会の活動を活性化させ、迅速な情報の公開を心がける。		
	道徳及び道徳プラスでの協働的学びを通し、課題の発見及び解決策を導く力を身に付けさせる。	生徒が自己有用感・達成感を味わえるような学習内容を展開する。		
	生徒指導	生徒全員に朝の挨拶をさせる	登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。	
服装・頭髪等について校則を守らせる		登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。		
遅刻者数を大幅に減らす		8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。		
交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ		校外立哨指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会等を実施する。		
問題行動を未然に防ぐ		全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。		
教育相談活動の充実		教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実を図る。		
特別活動		生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	
	部活動加入率50%以上とし、年間を通してのその維持に努める。	各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。 部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。		
	クラスマッチ、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	生徒間の協議を活発化させることで、学校行事の充実を図る。		
	キャリア指導の充実に努める。	生徒の個性に応じ、適切なキャリア教育を実施する。 進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。 教員間の連携をはかり、進路未決定者に対するきめ細やかな指導を行う。		
進路指導	キャリアガイダンスの充実に努める。	進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談、またキャリアデザインに関する指導などを適宜積極的に行う。		
	求人確保及び開拓に努める。	企業訪問を行い、求人確保及び開拓の推進、卒業生の動向把握に努める。		
	職業意識の啓発に努める。	就業体験(インターンシップ)など様々な活動をととして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。		
	環境整備	教室のワックスがけ、モップ交換を年4回実施し、教室の美化に努める意識、態度の育成を図る。 各清掃区域の清掃を実施し、生徒の美化意識の向上を図り、教員と生徒の信頼関係を構築する。 トイレは、特別棟(フローリング)、本館(タイル)と形態は違うものの洗剤、用具等を工夫して美化に努める。		
保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。 諸検診の効果的な実施に努める。 専門家による性教育を実施する。		
	学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。		
	学習環境を整備する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。 水質検査および室内環境検査等を実施する。		
	環境問題を身近なもの意識し、公共心や奉仕の心を育む。	学校周辺の空き缶・空き瓶・ゴミ等の清掃を年2回行い、教育環境に関心を持たせ、奉仕の心を育成する。		
	環境整備	教室のワックスがけ、モップ交換を年4回実施し、教室の美化に努める意識、態度の育成を図る。 各清掃区域の清掃を実施し、生徒の美化意識の向上を図り、教員と生徒の信頼関係を構築する。 トイレは、特別棟(フローリング)、本館(タイル)と形態は違うものの洗剤、用具等を工夫して美化に努める。		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	達成状況及び次年度への課題	
校務分掌	図書	生徒の読書センターや情報センターとして図書室環境を整備し、学習活動を支援したり、情報収集・選択・活用能力を育成する。	わかりやすい蔵書の配置・親しみやすい装飾にも努め、図書室を利用しやすい環境に努める。		
			図書館資料を整理し、蔵書のデータベース化を図り、貸出し返却手続等を迅速に行えるよう努める。		
		読書指導と読書の推進を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。		
			新刊本をカラーコピーし、教室・廊下等に掲示し、資料の提供を行う。		
			生徒・教職員に対して、購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付ける。		
			生徒発行の「図書室だより」を年間3回以上発行して新着図書案内を行い、読書に対する関心を高める。		
	渉外	PTA総会・各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	PTA総会をはじめ各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。		
			学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。		
			会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。		
			PTA支部研修会を実施し、保護者・職員の情報交換を行い、協力体制を確立する。		
鬼朋同窓会の組織強化に努める。		同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化、強化に努め、同窓生の連帯感を深める。			
スクールバスの円滑な運行をはかる。	スクールバス運行委員会において、問題点を把握し、安心安全に通学できるようにする。				
学年	一学年	挨拶の励行。	コミュニケーションの入り口である「おはよう」、「こんにちは」、「さようなら」のあいさつを教員側からも生徒側からも積極的に行う。		
		時間厳守の意識を定着させ、学校生活にメリハリを持たせる。	常に時間に注意を払い、特に学校行事や学年行事、移動教室などは余裕を持って「5分前行動」させる。また遅刻指導を徹底し、累積指導を課して改善を図る。		
		規範意識を高める。	特に男子のネクタイ着装や女子のスカート着装などの服装容儀・頭髪指導、スマートフォン使用に関するマナーを徹底し、規範意識の向上に努める。		
		授業内容の定着を図る。	朝ドリルを実施して基礎学力の向上を図り、アクティブ・ラーニングを導入し授業内容の充実に努める。		
		生徒ひとりひとりが卒業後に進路の自己実現ができるような指導を目指す。	適切な時期に適切な内容で進路ガイダンスを実施し、職業意識や学習意識を高めて、日頃の学習活動につなげる。		
	二学年	元気で明るいあいさつをさせる。	教員側から率先してあいさつをする。いつでもどこでも何度でもあいさつをする。また、授業、集会等での一斉挨拶も継続的に指導する。		
		時間厳守の意識を定着させる。	朝のショートホームルームのチャイムと同時に着席して待つ習慣をつける。移動教室、集会、行事等での5分前行動を定着させる。		
		校則を守らせる。	生徒に服装・頭髪・申請等々、各校則の理解をさせる。違反にはスタッフ全員で継続的に指導する。		
		情報ビジネス科の特徴を生かした指導を実現する。	高度資格取得をはじめ、校内外で活躍の場を創りだし、実務的かつ発展的な学習活動を行う。		
		進路指導の充実をはかり、学習意欲の向上を図る。	進路ガイダンスの実施、体験ツアー、外部講師を活用する。進路の意識を高めて、日頃の学習活動につなげる。		
三学年	社会人となることを意識したマナーの定着とコミュニケーション能力の向上をはかる。	鬼怒商の最高学年としての「プライド」を意識し、挨拶・服装・言葉遣い等模範生となるような指導をする。これまで通り家庭との連絡を密にし、生徒指導における小さなミスを見逃さず、学年一丸となって指導を行う。			
	キャリア教育の集大成として、自分の意志で進路を決定し、進路決定率100%を実現させる。	これまでの進路ガイダンス・面談等を通じて得た自己の適性に合う進路を選択し、決定に導くための進路関係の行事を月2回実施する。			
	授業環境の向上と生徒全員の卒業を実現させる。	高校生活が充実して終わるためには、残り少ない授業に「チャイムで始まりチャイムで終わる」ことを徹底させ臨ませる。			
	商業科の生徒が、最後まで各種検定試験に臨む意識を盛り上げる。	進路決定で満足せず卒業間際まで各自が目標とする各種検定試験に臨み、合格率80%を実現する。			
	情報ビジネス科の特徴を活かした高度資格取得の目標を達成させる。	全商1級3種目合格者20名、および高度資格（日商簿記2級、ITパスポート、全商英語1級）の合格を目標とする。			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分